

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第9回）開催概要

日 時 令和元年 10 月 24 日（木） 14：00～15：50
場 所 松戸市役所 新館 5 階 市民サロン
出席者 石井久雄、影山貴大、加藤岳、金子敏夫、富永尚次、中村旬治
（敬称略） （欠席：秋田典子、高橋裕樹）
事務局 松戸市総合政策部政策推進課市政総合研究室

1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

2 「懇談」

（1）地方創生交付金事業の検証について

- 事務局から説明
 - ・ 地方創生に関する交付金制度の推移 《資料 1》
 - ・ 平成 30 年度に実施した対象事業の概要及び実績等 《資料 2》
 - ・ 「対象の各事業が『総合戦略の KPI（重要業績評価指標）達成に有効であったか否か』についての評価」が、出席者に対して求められていること
- 検証結果（出席者の評価及び意見）

平成 30 年度実績調書 No.1 （地方創生推進交付金充当事業）	
事業名称	松戸市介護人材育成のための事業
評 価	総合戦略の KPI 達成に有効であった
付帯意見	<ul style="list-style-type: none">・ 年々、実績値も上がってきており、「無資格な方が介護業界に従事し、それを正規雇用につなげる」という、社会的にも非常に意義のある事業だと思う。国の補助金の活用は終了するが、更に発展的に実施してほしい。・ KPI も、効果的なものが挙げられていて良いと思う。・ 正規雇用されている人数が年々減少していることから、介護業界に従事する人の潜在的な母数が頭打ちになってきたところか。今後、この数値が増えたり減ったりすることで、効果の有無が変わってくると思うので、追跡調査が必要になるのではないかと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も事業を継続するのであれば、正規雇用の人数を伸ばすための効果的な仕組みを考える必要があると感じる。 ・ 正規雇用後の定着率については、何年か経過して、どのくらい正規雇用が定着しているのか、継続的に見るべきだと思う。人材不足解消という大目標があるなかで、育成とその定着を合わせて行うことが、この事業の肝だと思う。 ・ 長期的な正規雇用の定着をみることで、介護人材の方たちが働きやすい環境を整えていく必要があると思う。 ・ 1日あたりの単価も増額されたが、他市や他県、東京都などと違う数値にしていかないと、なかなかこの事業に人を集めるのは難しいのではないかと思う。東京都の最低賃金が1,013円で、千葉県は923円と、随分と開きがあると感じた。こうしたことから、地方に人が流れないような仕組みが出来てしまっているのだろうと考えさせられた。 ・ NPOを設立し、介護事業を楽しそうにやっている若手の事業者もいる。そういった事業者の支援もやってもらえればと思う。 ・ 介護業界は、人材確保が難しい業種で、携わりたくないという方も多い。そういうイメージなどからも、慢性的に人手不足になっているということを感じている。 ・ 千葉県でも、森田県知事がベトナムの訪問などもしているが、今後は外国人材の活用を視野に入れ、研究をしても良いのではないか。 ・ 先の台風被害で避難所の支援を行うなかで、介助が行える人材の不足を痛感した。介護人材の育成は継続していただきたい。そして、介護事業所の職員はもちろん、緊急時に介助も行える市の職員の育成も、今後は必要だと思う。
--	---

平成30年度実績調書 No.2 (地方創生推進交付金充当事業)	
事業名称	コンテンツ産業振興事業
評価	総合戦略のKPI達成に有効であった
付帯意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ KPIは、目標に対して実績は下回ってはいるものの、数値はしっかりと増えてきている。 ・ 本事業のKPIの数値も上昇してきており、地方創生に相当程度効果があったと認識している。 ・ この事業は、これからの時代を先取りした、面白いものだと感じている。 ・ コンテンツ産業をしっかり成長させていくことで、松戸市が

上向くと思う。

- 毎年度、発展した取組みを考えていると見受けられる。マッチング促進の取組みが、さらに活性化していくと良いと思う。
- 小学生が作ったゲームのコンテストやプログラミング教室など、子どもや若者向けのイベントも企画されていて、非常に良いなと思った。
- プログラミングは、学校教育のなかで必修科目になっていると聞くので、こうした部分と関連づけて、もっとPRしていただきたい。これにより、次世代のクリエイター育成につながればうれしい。小学生から中学生、高校生と、コンテンツに関わる層を広げていただきたい。
- 学校教育とも連動してほしい。最近は、eスポーツなども活況となっている。こうした状況には、賛否両論あると思うが、コンテンツ産業に関わりを持つことが不可避な時代になってきていると思う。
- PRについて、もう少しとがって打ち出してもいいのではないか。松戸がコンテンツ産業に取り組んでいるよ、というのを、もっと大々的に打ち出していいと思う。
- 活躍されているクリエイターさんを前面に出すと良いのではないか。子どもや若者にとって憧れの対象となる人がいれば、「僕も、私も、こうなりたいな」ということで、コンテンツ事業が更に盛り上がると思う。そういう若者を地元につなぎ止めておくためにも、こうした事業の振興は図ったほうが良い。
- ゲームを作っている著名な方やクリエイターで有名な方がいれば、名前を出したり、クリエイター一人ひとりに焦点が当たるような事業をやってみると面白い。松戸市でも以前、「介護男子」という企画をやっていたが、そうしたことをやってみてもいいのではないか。
- 介護などの業界では、外国人材の活用が進められているが、この事業においても同様に、外国人が来ることにより様々な化学反応も期待されることから、なかなか難しいのかもしれないが、世界へ発信するというのも、面白いのではないかなと思う。
- 若者にいかに活躍してもらうか、ということは大切なことだと感じている。
- 松戸市には、姉妹都市も国内外にある。そうした都市とのつながりや連携を深めるにあたり、ARやVRなどのITコンテンツを使った体験活動の場が、その一助となるのではないかなと思う。

平成 30 年度実績調書 No. 3 (地方創生推進交付金充当事業)	
事業名称	インキュベーション・コワーキング施設整備運営事業
評価	総合戦略の KPI 達成に有効であった
付帯意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ こうした取組みにより、自ら事業を立ち上げようという人をしっかりと支え、雇用の創出が可能になると思う。 ・ 新たな事業者が松戸に集まり、有機的につながり、新たなビジネスにつながる、そういった効果もある事業だと思う。 ・ セミナーなどを繰り返し開催していくようだが、継続していくことが必要だと感じる。 ・ 開設からまだ半年とのことだが、登録事業者数、参加者数、市内就業者数の数値は低く見える。この事業を通じて成長した事業者やそこで働く労働者が、その後も活躍できる環境の整備に取り組まない限り、せつかくの人材が他市や県外に流出してしまう心配があると思う。 ・ 事業は始まって間もないところだが、もう少し P R の方法を考えていくべきなのかなと思う。 ・ P R の方法については、例えば利用者に口コミを発信してもらい、新たな利用者を連れてきていただいたらインセンティブがあるといったようなもの。我々自身が新たな利用者を見つけることは難しいが、「松戸にこういうものがあるよ」と、使っていたいただいた方の口コミで新規利用者を集めるというのも一つの手かと思う。 ・ コワーキング施設は、市内には以前からもあったが、インキュベーション施設は当施設が初めてだと思う。コンテンツ産業ともうまく掛け合わせて活用していただきたい。 ・ 懸念事項としては、松戸駅周辺にコワーキング施設が集中しており、前に新松戸にあった施設も松戸駅周辺に移転してきた。市内の各エリアにそうした施設があるかということ、そうとも言えない。新松戸や東松戸などは若い人も増えてきているので、そうしたエリアへの展開も一つの切り口として面白いのではないか。 ・ 市内のコワーキング施設同士で顧客を奪い合い競争するのではなく、協調をすることにより、この事業に協力してくれる人が増えてくるのではないか。 ・ こうした施設がやっとできたなと感じている。仕事で関わりのある工業や建築関係の企業の方たちも、「施設が出来てよかった」と話していた。 ・ 市内企業でも、廃業する企業が増えてきている。創業者を増やさなければ、街がダメになってしまう。行政としても、関連

機関と連携をしながら創業支援を進めていただきたい。

(2) 地方創生をめぐる国・県の動向について

(3) 次期「松戸市総合戦略」について

○ (2) 及び (3) について事務局から一括して説明

- ・ 次期松戸市総合計画（仮称）策定方針《資料3》
- ・ 「松戸市総合戦略」について～現行「総合戦略」の1年延長措置～《資料4》

○ 出席者の意見

- ・ 松戸市の総合戦略は、第2期から総合計画と一体のものとなるようだが、現在のように総合計画と総合戦略と2つに分かれているよりも、一体のものとして進めた方が効果的に動けると思う。
- ・ 総合戦略の要素に含まれているかはわからないが、国は「防災」や「外国人労働者」に関して非常に注力していると認識している。防災の現場で明らかに問題となってきたのは、常日頃からのコミュニティにおける人と人とのつながり不足。
- ・ 防災の面で、ラジオ会社が常時情報を発信していたことが役立つ事例などもあり、コンテンツ産業を掛け合わせつつ、防災対策を考えていく必要もあると思う。
- ・ 外国人労働者は、今後増えていく。住民として外国人をどのように迎えるのか。我々もしっかり考えなくてはならない。彼らが過ごしやすい街づくりをどのように行っていくのか。外国人も同じ市民なので、切り捨てたり遠ざけたりするのではなく、歓迎するような街づくりをしていくべき。
- ・ 関係人口について。インキュベーション施設でも、他市の施設と連携を進めるといいと考える。柏のインキュベーションも、幕張のコワーキングと連携しているようだ。市を超えて、向こうで働いている人が、こちらに来るといった。そういった既存の事業に合わせつつ、関係人口が増えるような取り組みにつなげていくことで、小さな負担で関係人口の増加を進められると思う。
- ・ 人口が減少したなかでも、KPIなどの数値を追うだけではなく、そこに住む人たちが本当に幸せに生きているか、そういったところにしっかり視線を落としつつ、事業展開をしていただけると良いなと思っている。
- ・ 市が主催するワークショップに参加したが、このことは非常に良い経験だったと思っている。これまで行政に全く関わりの無かった市民が、街の施策に関わり自分の街がどうなっていくかという意識を持ったことは、とても良いことである。あのワークショップのように、市職員だけではなく、地域の方たちも巻き込みながら、一緒に街を盛り上げていくことができれば、仮に人口が減ったとしても「住みやすいまち松戸」になっていくので

はないか。ぜひそういう方向を考えていただきたい。

- ただの交流人口では、移住・定住まではいかない。もう少し深く街に関わってもらうために、街に関わらせる仕掛け人というか、間をつなぐ人材が重要なのではないか。そういった人材がいれば、交流人口から関係人口になってもらえるのではないかと思う。
- 松戸市内で子ども食堂の取組みをしている。この取組みは、孤食をメインにしている、ニーズとしては、子どもも多いが、年配の方、配偶者に先立たれて一人暮らしをしている方などがふらっと立ち寄ることが増えている。3年間やっていて、ようやく「安全安心の場だ」という認識が増えてきて、ふらっと立ち寄る方が増えた。続けることの大切さと、孤独のようなものを埋める場所、地域のコミュニティレベルでいいので、そういう場が求められていることを痛感する。それは、大きな政策などではなく、地域にある人が集える場であればいいと思う。
- 松戸市に来てみて感じたこととしては、都心へも近く、可能性があるというか、いろいろやれそうな街だなということ。一方で、もっと「松戸ならではの」という魅力を発信できればいいのかなというところ。
- 横須賀市は、スマートフォン向けアプリゲームとコラボレーションしたイベントで、たくさんの人が集まったようだ。何か人を呼び込むような仕掛けを作り、人が流れてきたところで、松戸の魅力に気づいてもらって、今後も松戸との関係を築いてもらえればいいと思う。
- 子育てのしやすさは、そこに関係する層の人に訴求するものだと思うが、安全安心は全世代に関連する。「松戸市であれば、もし何かあった後でも、継続して安心して暮らせる」という点があれば、素晴らしい魅力だと思う。
- お祭りや盆踊りなどの行事のあり方、暮らし方といった伝統において、そうしたものが若者に継承されないことが、課題となっている。大学生などの若者の知恵や力を結集させれば、自分たちがいる松戸市というものを意識し、伝統を残すことへの認識が高まってくるのかと思う。
- 松戸市に住むクリエイターの力を借りて、イメージキャラクターを誕生させては良いのではないかと思う。ここ数年、「刀剣女子」と呼ばれる刀を擬人化したハンサムなキャラクターが好きな女性が増えたり、艦隊をモチーフにしたもの、鉄道の駅名などで擬人化されたことで人気になったものもある。観光名所や食べ物などの名称のアクセントや句切りを少し変えて、「トジョウ・テイ」のようにするなど、擬人化させれば多くのキャラクターを生み出すことが出来るのではないか。そういったことを幼稚園や小学生などの子どもの目線から、空想のなかで育てていく場やイベントごとがあればいいと思う。そうしたキャラクターを生み出すクリエイターさんも、コンテンツ産業の取組みと連携できれば良い。
- AR や5G などの発展も、人口増加につながれば良いと考えている。
- “きてみてまつど通り”の通行量調査に携わっているが、“きてみてま

つど”が出来たことによって多少人の流れは増えてきたようだ。ただ、県内の調査を見ると、松戸は「単独商圈」に分類される。単独商圈なので、松戸市民しか買い物にやっこないが、市民も市内でモノをあまり買わず、市外に出て行ってしまふ。商圈からみると、柏市は松戸市と違ふ位置づけである。こうした違ひが、ここ数年で露呈してきたと感じる。

- 働くという面でも、「松戸都民」という言葉のとおり、都内へ勤務する市民が多く、松戸市はベッドタウンである。
- 今後、松戸の商業を持ち上げていくには、働く場所があつて、街に買い物に出てもらえるような街づくりをしていかなくては。
- テラスモール松戸が出来たことで多くの方に来てもらえると思うが、「松戸には他に何か無いの」という問いもある。「本土寺や戸定邸にも寄ってみよう」というように、回遊してもらえる仕組みを考えなければならないと思う。PRする資料などをショッピングモール内に置いてもらうなど、方法はあると思う。改めて、松戸を見てもらうことにつながれば良い。
- 松戸市よりも地方に行くと、人口が減り、高齢化が進み、事業所も減り、深刻な状況となっている。そうした環境のなかで、わが社はさまざまなアライアンス＝他地域との連携を進めている。地方公共団体でも、他地域と連携して色々と動いてはいかがか。関係人口の創出や拡大も、本市単独で行うよりも、周囲の地域も巻き込んで広域的にいろいろなことを考えていけばよいのではないか。
- 人口減少や高齢化が進むなかで、ダイバーシティの推進、女性・シニア・障害者・外国人の活用をいかにうまくやっていくか。こうしたところで、相当差がつくのではないか。そういった目線からも、計画策定に取り組んでいけばよいのではないか。
- 25年ほど前に、松戸市に社宅があり生活していた。人口は当時より増えたと思うが、その頃の方が商業の面でも活気があり、街が栄えていた印象。買い物をしていても楽しかった。こうしたことは、伊勢丹の撤退だけが原因だろうか。
- わが社は市内に9店舗あり、松戸の店舗が市内店舗の取りまとめをしているが、馬橋や新松戸、八柱でもそれなりに顧客のボリュームがある。近隣の柏市や船橋市では、取りまとめ店舗がダントツで大きく、周りに個々の店舗があるといった状態。そうしたことから、街の広がりとして、松戸駅周辺に集中していない、分散しているので盛り上がらない、ということはあると思う。商業集積には、そうした街の広がりも影響があるのだろう。

3 「事務局からの報告」

○ 事務局から説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。
- ・ 次回は、松戸市総合戦略の各事業について検証していく。

4 「閉会」

以上